

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや臨床検体を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究名】

乳房温存術後の整容性と関連する因子の探索

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院 乳腺センター

【研究責任者】 亀井 義明（乳腺センター センター長）

【目的・意義】

乳房部分切除術は、乳癌とその周囲の組織を1～2cm程度広くとって切除する手術であり、通常は手術後に放射線療法が行われ、「乳房部分切除術+放射線療法」をセットにした治療を「乳房温存療法」としております。乳房部分切除術をする上で問題となるのが、「がんを完全に取る」という根治性と、「乳房の形をできるだけ整える」という整容性のバランスです。大きくとれば、胸の変形は大きくなり整容性は悪くなります。

個人の乳房の大きさや、腫瘍の大きさ・位置などが関連することが知られていますが、客観的かつ定量的な因子については、あまりわかっておりません。

そこで、今回、当院で乳房部分切除術を施行された患者さんの術後の整容性と関連する因子について検討することとしました。

【研究方法】

対象患者：愛媛大学医学部附属病院にて2014-2023年8月の間に当科で乳房部分切除術を施行された患者さん。

方法：整容性について、日本乳癌学会研究班沢井班による温存術後の整容性評価法を用いて評価し、その結果と患者さんの情報（腫瘍の位置や体積・乳房の構成・乳房と腫瘍の体積比など）との関連について検討する予定です。

【研究期間】

愛媛大学医学部附属病院長許可日～2025年3月31日

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

【情報管理責任者】 乳腺センター医員 田口加奈

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、**【お問い合わせ先】**までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院乳腺センター センター長 亀井 義明
〒791-0295 愛媛県東温市志津川
電話番号：089-960-5327